

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 4日は、前線が大陸から西日本にのびる。
- 5日は、前線は東日本日本海側までのび、8日にかけて日本海をゆっくりと北上する。
- 期間を通して、太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

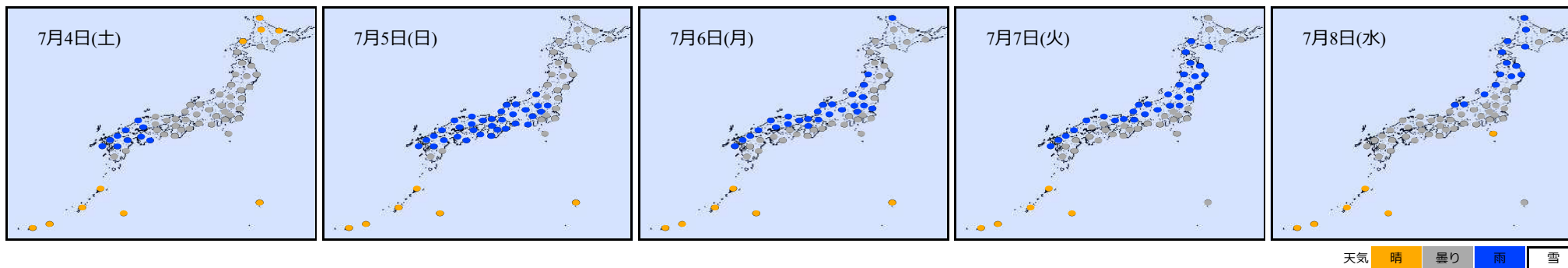
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

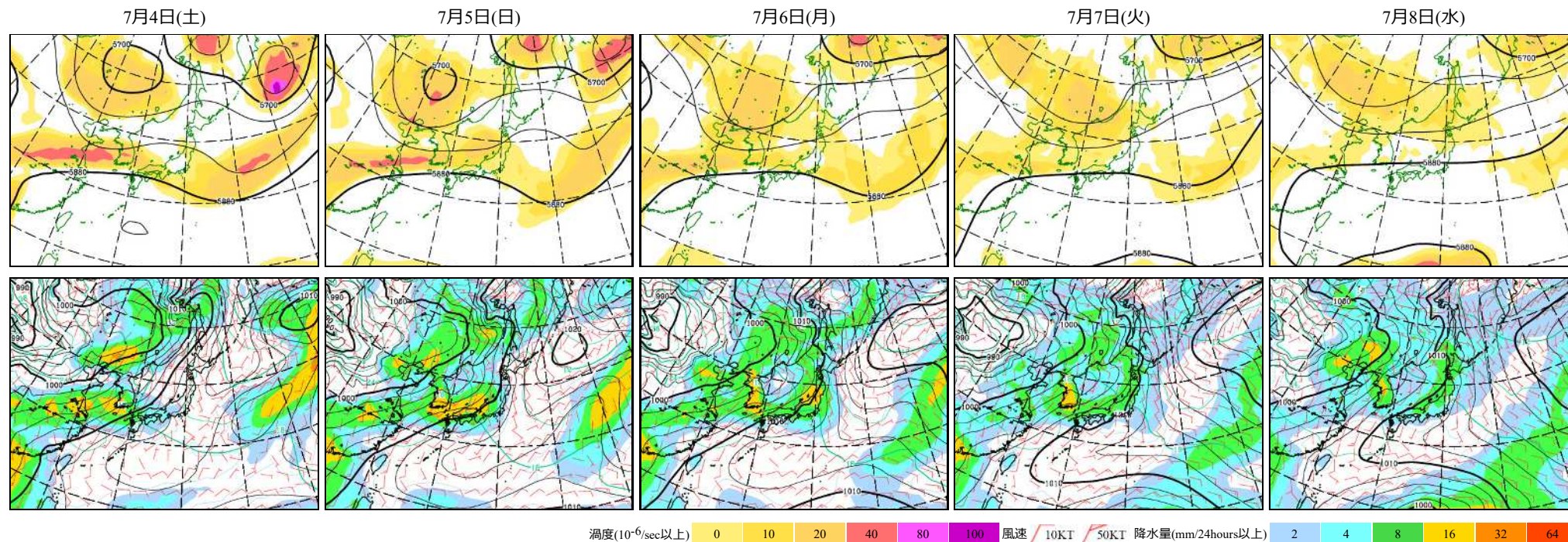
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

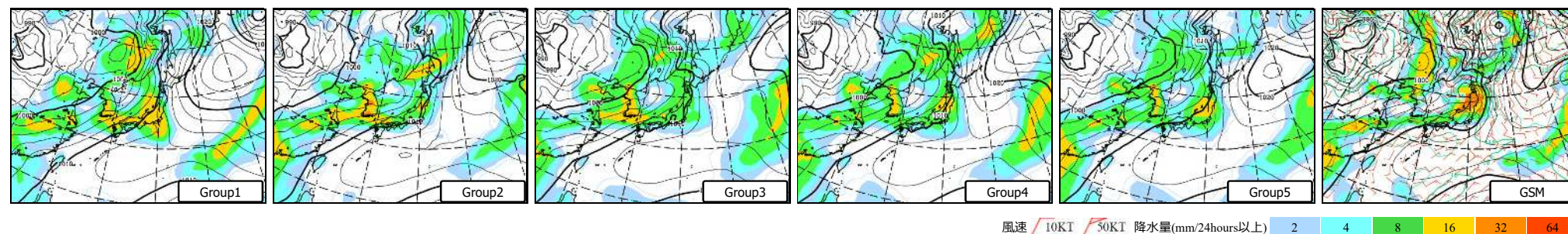


- 北日本は、4日は晴れる所もあるが、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れる日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月6日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、4日から6日にかけて日本付近から千島近海に進むリッジの進みが早くなった。地上の気圧配置は、4日から5日にかけて日本の南と千島近海の高気圧がやや強くなった。
- 4日から5日にかけては、日本付近を進むトラフやリッジが初期値変わりしたモデルもあるが、モデル間の差は小さい。6日以降は、北日本を進むトラフの予想にモデル間の差がある。
- 6日の気圧配置について、GSMは低気圧が日本海北部に進むが、海外モデルは千島の東の高気圧が北日本に張り出し、東日本南岸付近が気圧の谷になっている。ENSは、それぞれのモデルに近いメンバーを含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。